

午後 10 時。三日間の難産に苦しむミセス・ピュアフォイを見舞うべく、ブルームはホレス通りにある「国立産科病院(National Maternity Hospital)」¹を訪れる。

Gifford の注釈書によると(406-49)、古代英語から現代の話し言葉に至る文体(Style)模倣は 32 から成る。本挿話の日本語訳は、丸谷オ一による「偉業」の一つであるから、以下では『ユリシーズ』英語原文の行数、集英社訳(鼎訳)のページ数、模倣した文体と邦訳における文体模倣を併置する。



【Style① U 14.1-6 /U-Δ 14.13/古代の祈禱文/万葉がな】

三度繰り返される、「南行保里為佐(Deshil Holles Eamus)」^{なんかうせんホルリス}は、アイルランド語の deasil / deisiol (「右へ/時計回りに」と英語の Holles (産院の所在地 Holles Street) そして、ラテン語の Eamus (いざ参ろう=Let us go) から成る。太陽神への祈願と男子の誕生を祝う言葉が続く。

【Style② U 14.7-32/U-Δ 14.13-14/ローマの歴史家サルスティウス(前 86-34) およびタキトゥス(前 55 頃-120 頃) のラテン語散文直訳体/明治の漢文くずし】

「一国家の繁栄(the prosperity of a nation)」が「繁殖(proliferent / profundity / abundance)」の連続に基づくことが語られる。

【Style③ U 14.33-59/U-Δ 14.14-15/中世ラテン語散文年代記の翻訳文体/漢文くずし】

それ故、ケルト民族は医学(the art of medicine)を発達させてきた。「多産なる母(proliferent mother)」は富貴を問わず「繁栄」の証であるから、特に産院は保護されるべきであることが語られる。

【Style④ U 14.60-106/U-Δ 14.15-18/アングロサクソン時代(エルフリック [955 頃-1020 頃]、哀歌「さすらい人」) /祝詞・『古事記』・『万葉集』】

かくして、産院の前に立つ「行旅」^{たびびと}(U-Δ 14.16)こそが、ブルームである。看護婦のキャランが戸を開けると西の空に雷光が見え、彼女は恐れ戦く。そして、喪服を着たブルームを見て、不幸があったかどうかを問う(第 8 挿話のブルームとグリーン夫人とのやり取りを想起させる)。

【Style⑤ U 14.107-22/U-Δ 14.18-19/中世英語の散文/『竹取物語』】

産院に入ったブルームはピュアフォイ夫人の様子を尋ねると、看護婦は三日三晩陣痛に苦しんでいるが、間もなく生まれそうだ、と答える。

¹ 右の写真は The Joyce Project より(<http://m.joyceproject.com/notes/140035holles.html>)。

【Style⑥ U 14.123-66/U-Δ 14.19-21/15 世紀の『マンデヴィルの旅』(1336-71 頃)の英訳/『宇津保物語』】

病院の休憩室の戸が開くと、酒盛りをする声が聞こえ、若き**医師ディクソン**が二人のもとにやって来る。彼はブルームを宴会に誘い、ブルームも最初は断るが、「国々あまた経めぐり、折節は好色しき業もなせしより、身うちいといたう痛めば、しましやすらはむとて」(U-Δ 14.19)一座に加わることとなる。ブルームはディクソンから酒を注がれ、儀礼上最初の一口だけは飲むが、残りは隣にいた者のコップにこっそり移す。

【Style⑦ U 14.167-276/U-Δ 14.21-27/15 世紀の T・マロリー (1408 頃-1471)『アーサー王の死』/『源氏物語』『落窪物語』などの王朝物語・戦記物語として『平家物語』】

看護婦のキャランは宴会をやめるよう迫るが男たちは聞く耳を持たない。ブルームは宴席に、**レネハン**がいることに気が付き、話しかける。その後、4名の医学生——**リンチ**、**マッデン**、**クロザーズ** (スコットランド出身)、**ユステロ**——に加え、**スティーヴン**がこの場にいることを知ったブルームは、同情心からこの場を去りがたく思う。彼らは母体に危険があるとき、母と子のどちらを優先すべきかという議論を行っており、大方の者が母だとするのに対し、スティーヴンは子の命を優先すべきだと訴える。ブルームはその意見に賛同しつつも、生後 11 日でルーディを失ったときの哀しみとモリーの嘆きを思い出し、亡き息子の姿をスティーヴンに見出す。

【Style⑧ U 14.277-333/U-Δ 14.27-30/16 世紀エリザベス朝(1558-1603)の散文年代記/『平家物語』の続き】

泥酔するスティーヴンは、冗談半分に教皇のために乾杯と叫び、「女の子宮において言は肉と化し、造物主の御心において、変りゆくあらゆる肉は変りゆくことなき言となる。こは後なる造化(postcreation)なり」(U-Δ 14.28)と言う。ここには神学的な^{ロゴス}言と肉の問題、処女性(処女懐胎)の問題、そして何より彼自身の母への想いが彼の芸術論とない交ぜになっている。

【Style⑨ U 14.334-428/U-Δ 14.30-35/16 世紀後半～17 世紀のラテン語的文体 (J・ミルトン[1608-1674]、R・フッカー[1553/54-1600]、T・ブラウン[1778-1820]など) /『太平記』・『義経記』】

医師ディクソンがスティーヴンになぜ聖職に就かなかったかを問うと、彼は「子宮ニアリテハ従順、墳墓ニアリテハ貞潔、サレド命アルウチハ不本意ナガラモ貧困ニ生クベキ事也」と答える(U-Δ 14.30)。一同の話題が娼婦を巡ってますます過熱する。その後、スティーヴンが「ジャックの建てた家」という名の童謡を歌い、神の創造性を揶揄すると、まるでそれに対して神が怒りを示したかのように雷鳴が轟く。怯えるスティーヴンに対し、ブルームは「自然現象(a natural phenomenon)」だから、と言って落ち着かせようとする。

【Style⑩ U 14.429-73/U-Δ 14.35-38/17 世紀の J・バニヤン(1628-1688)『天路歷程』(1678, 1684)/仮名草子】

スティーヴンの雷嫌いの理由が説明される。彼はかつて敬虔な信徒であったが、「肉欲(Carnal Concupiscence)」が信仰を持ち続けることを不可能にしたのだ(ただし、これは「避妊具(a stout shield)」を所持する、この場にいる男たち全員に当てはまる)。本節の語り手は最後に、このように乱れた性に溺れる彼らに対し、先ほどの雷鳴は多産を命じる神の怒りだったのだ、と説明する。

【Style⑪ U 14.474-528/U-Δ 14.38-41/17 世紀日記文学 (J・イーヴリン[1620-1706]や S・ピープス[1633-1703])
／切支丹文学】

雨が降り始め、ここで語りの視点は一旦産院の外に出る。すると、ジョージ・ムアの夜会から戻ったマリガンが、道すがらマリンガーから戻ったばかりのバノンと出くわしたことが語られ、二人は雨宿りも兼ねて、産院に向かう。語りもまた産院に戻り、宴会に参加している男たちの名に触れたのち、ピュアフォイ夫人について語る。今回出産する男児は彼女の 12 番目の子どもであり (ただし 3 人は既に死去)、夫は 50 歳でメソジストからカトリックに改宗した人物であることが語られる。

【Style⑫ U 14.529-81/U-Δ 14.41-44/18 世紀 D・デフォー(1661 頃-1731)/浮世草子 (井原西鶴)】

レネハンがスティーヴンに、無事ディージー校長の投書が夕刊に掲載されたことを告げると、それを聞いていたブルームは口蹄疫のために牛が「虐殺」されることを心配する。

【Style⑬ U 14.581-650/U-Δ 14.44-47/18 世紀 J・スウィフト(1667-1745)『桶物語』(1704)/浮世草子 (井原西鶴)】

リンチとディクソンが「牡牛(bull)」と「教皇教書(Bull)」を巡る冗談話をする。

【Style⑭ U 14.651-737/U-Δ 14.47-52/18 世紀エッセイ (J・アディソン[1672-1719]や R・スティーール[1672-1729]) /浄瑠璃 (近松)】

バノンを連れたマリガンが現れる。マリガンは即座に、宴席の一同に対し、「オンファロス」という名の「国立受精場」を建設するという計画を話す。

【Style⑮ U 14.738-98/U-Δ 14.52-55/18 世紀後半 L・スターン(1713-1768)/人情噺 (三遊亭円朝)】

バノンは胸にかけたロケットから写真を取り出すと、「品のよしい婦人胸衣をまとひ、誕生日の贈り物じやそうなあだつばい 新品の帽子」(U-Δ 14.52-53)をかぶる恋人ミリーのために、「雨外套」を買うつもりだと語る。するとマリガンは「ホーン岬ではどんな丈夫な外套をも貫く雨が降る」と言い、さらにリンチは「雨傘」の方がましで、彼の恋人キティは「洪水のなかで踊る方はうがまし」と述べたと言う(U-Δ 14.54-55)。

【Style⑯ U 14.799-844/U-Δ 14.55-58/18 世紀 O・ゴールドスミス(1728-1774)/滝沢馬琴】

看護婦のキャランが入って来て、医師のディクソンにピュアフォイの出産が終わったことを耳打ちで告げ、立ち去る。コストロが即座に彼女に対して猥褻な発言をする。そして、次にディクソンが一堂の男たちに出産のことを告げ、その場を去る。

【Style⑰ U 14.845-79/U-Δ 14.58-59/18 世紀 E・パーク(1729-1797)/滝沢馬琴の続き】

ブルームが、実は先ほどから若者たちの女性に対する侮蔑的な物言いに對し、怒りに耐えていたことが語られる。ただし彼は「憐憫の情 知ることなき 年少の至りの 過失と見すご」すこととし、何より無事出産が終わったことに安堵する。

【Style⑱ U 14.880-904/U-Δ 14.59-61/18 世紀 B・シェリダン(1751-1816)/式亭三馬】

なおも続く男たちの猥談に対し、ブルームは心の中で、学位を取りさえすれば、すぐに彼らのような不敬な者たちが今度は尊敬される側になるのだよな（「並々ならぬ輪廻転生の才」）、と考える。

【Style⑲ U 14.905-41/U-Δ 14.61-62/18 世紀風刺家ジュニアス（1769-72 年にかけてロンドンの新聞への投書の際に使われた PN） /石田梅岩】

しかしブルームは即座に、マーサやガーティとのやり取りを思い出し、自分も偉そうに説教ができる人間ではない、と思う。

【Style⑳ U 14.942-1009/U-Δ 14.63-66/18 世紀 E・ギボン(1737-1794)/平田篤胤】

ディクソンとキャランがいないのをいいことに、男たちは奇形児や分娩の方法や人工授精、さらには強姦や獣姦について語る。

【Style㉑ U 14.1010-37/U-Δ 14.66-67/18 世紀 H・ウォルポール(1717-97)の怪奇小説、19 世紀レ・ファニュ(1814-1873)の怪奇小説、20 世紀シング(1871-1909)の戯曲における台詞 /黒岩涙香】

マリガンはヘインズについて語る。ただし、ここでは文体に合わせて「怪談」として語られるため、実際にヘインズがこの産院に現れたわけではない（11 時 10 分の最終電車に乗ってマーテロ塔に帰るべく、ウェストランド通り駅で待ち合わせをする約束があることは確からしい）。

【Style㉒ U 14.1038-77/U-Δ 14.68-70/18 世紀 C・ラム(1775-1834)の随筆 /初期の森鷗外（『即興詩人』）】

ここで突如、ブルームが過去の出来事を回想する様子が語られる（寒い朝に母の作ったパンを持って高校へ行ったときのことや、行商人として働き始め女性たちに微笑みを振り撒いていた頃のことなど）。そして、語りは「今や彼は父にして、彼の ^{まはり} 周囲に在るは息子たちやも知れず。誰かは知るものぞ」（U-Δ 14.69）と述べる。

【Style㉓ U 14.1078-1109/U-Δ 14.70-72/19 世紀ロマン派のエッセイ（T・ド・クインシー[1785-1859]） /森鷗外（『即興詩人』）】

ブルームの想念は、やがて死海へと進みゆく「野獣の群れ(zodiacal host)」へと移る。さらに、一匹の馬が天を駆け、星になると、それが光り輝く女性（マーサ、ミリー）へと「輪廻転生(metempsychosis)」し、彼の幻想の中の夜空を彩り、「ルビー」色なす三綾の記号「アルファ」となむなりて燃えあがる(it blazes, Alpha, a ruby and triangled sign)。

【Style㉔ U 14.1110-73/U-Δ 14.72-76/19 世紀 W・S・ランド(1775-1864)/若松賤子訳『小公子』】

クロンゴウズ時代の同級生であるコストロがスティーヴンに当時の人々について質問をするが、スティーヴンは彼らは「過去と ^そ 夫の亡霊の事(the past and its phantoms)」だと切り捨てる。リンチはスティーヴンの作品を皆が期待をしているんだと言うものの、レネハンは不用意に彼の死んだ母について言及したため、スティーヴンの表情は暗くなり、皆がそれに同情する。話題は競馬に移り、一番人気のセプターではなく、ダークホースのスローアウェイが勝ったことが知らされる。リンチは恋人といたときにコンミー神父にばったり出会

ったことを語る。レネハンがバス社の瓶ビール(エール)²を注ごうとすると、そのラベルをじっと見つめて物思いに耽っているブルームに気づいたマリガンがそれを制す。

【Style⑳ U 14.1174-1222 / U-Δ 14.76-78 / 19世紀 T・B・マコーリー(1800-1859) / 初期の夏目漱石】

しかし即座に語り手は、ブルームはぼんやりしていたのではなく、過去の思い出に浸って



いただけだと説明し、レネハンの視線に気づいたブルームは、その瓶の中身を一滴もこぼさずに注いであげる。

【Style㉑ U14.1223-1309 / U-Δ 14.78-83 / 19世紀 T・H・ハクスリー(1825-1895) / 内村鑑三】

ブルームは一座の者たちに性別はいかにして決定されるかを問い、「乳児の死亡率の問題」について言及すると、マリガンが「優良児出産法がやがて一般に採用せられる」だろうと予言する。スティーヴンが神学懐疑の立場から出産について軽々な発言をしたことに対し、ブルームは穏やかな口調ではあるがきっぱりと彼をたしなめる(「己の生命の危険を冒してもか(At the risk of her own)」)。

【Style㉒ U 14.1310-43 / U-Δ 14.83-85 / 19世紀 C・ディケンズ(1812-1870) / 菊池寛】

無事出産を終えたピュアフォイ夫人について(ディケンズらしく幾分感傷的に)語られるが、この場には彼女の子どもたちだけでなく、夫のセオドア(ドーディ)ですら立ち会っていないことが明らかになる。

【Style㉓ U 14.1344-55 / U-Δ 14.85-86 / 19世紀 J・H・ニューマン(1801-1890) / 永井荷風】

罪、あるいは悪の記憶が心の奥底に潜んでいることが語られ、ふとしたきっかけでその記憶が呼び出されることが指摘される。

【Style㉔ U 14.1356-78 / U-Δ 14.86-87 / 19世紀 W・ペイター(1839-1894) / 谷崎潤一郎】

(前節でちょうど語られたように)スティーヴンを目の前にして、ブルームは彼と初めて会ったときのこと(ラウンドタウンで行われたディロン家のガーデン・パーティ)を想起する。そこには4、5歳だったスティーヴンをやさしく見守る彼の母の姿があったことをブルームは思い出す。

² エドゥアール・マネ『フォリー・ベルジェールのバー』(1882年)。

画像の出典は下記。 https://en.wikipedia.org/wiki/File:Edouard_Manet,_A_Bar_at_the_Folies-Berg%C3%A8re.jpg

【Style⑩ U 14.1379-90/U-Δ 14.87-88/19世紀J・ラスキン(1819-1900)/石川淳】

雷鳴の轟きと豪雨の襲来のごとく、「その語」が発せられることで「激烈な変化」が起こることが予言的に語られる。

【Style⑪ U 14.1391-1439/U-Δ 14.88-91/19世紀T・カーライル(1795-1881)/宮沢賢治】

その語とは、スティーヴンの「バーク [酒場] へ! (Burke's!)」という掛け声に他ならない。彼の叫び声に続いて、一同はやかましくパブへ向かう。母子共に無事だと知らせに来たディクソン医師もこれに加わるが、ブルームはピュアフォイ夫人に祝いの言葉を伝言してもらおうべく、看護婦 (キャラン?) と共に少しの間残るといふ優しさを見せる (その後、彼もパブに向かう)。にわか雨が止み、外気は「星の輝く大空の下、ダブリンの石畳の上に光」る様子も語られる。

【Style⑫ U 14.1440-end/U-Δ 14.91-101/方言と隠語/方言、俗語、隠語】

「みんなでばか騒ぎ」する様子が語られる。酒場に到着すると誰の支払いになるかが話題になり、結局給与を得たスティーヴンがおごることになる。ディクソンが蜂に刺されたブルームの治療をしたことを語り、レネハンはモリーの魅力を語る。レネハンがバンタム・ライアンズも酒場にいることに気づき、その一方バノンは恋人の父がブルームであることを知る。マッキントッシュの男もこの場にいることが確認される。バノンとマリガンは電車に乗るため先に退席する。閉店時間の十一時になり、スティーヴンがリンチを娼婦街に誘うと、それを耳にしていたブルームは彼らのあとを追うことにする。



○この地図は下記のサイトより引用。

<https://webapps.geohive.ie/mapviewer/index.html>

☆参考文献

川口喬一『「ユリシーズ」演義』研究社出版、1994年。

結城英雄『「ユリシーズ」の謎を歩く』集英社、1999年。

Gifford, Don with Robert J. Seidman. *Ulysses Annotated: Notes for James Joyce's Ulysses*. U of California P, 1988.

Killeen, Terence. *Ulysses Unbound: A Reader's Companion to James Joyce's Ulysses*. 2nd ed. Wordwell, 2005.

<https://www.ulyssesguide.com/14-oxen-of-the-sun>